

新春親善少年サッカー大会規定

【大会規定】

1. 予選は敗者戦のあるトーナメント制、決勝は決勝及び順位トーナメントを原則とする。
2. 試合時間は40分（前後半各20分）とする。ハーフタイムは5分。
3. 時間内で勝敗が決しない場合、予選及びトーナメントの勝ち上がり決定は、PK方式（PKは5名）とし、決勝トーナメントの決勝戦・3位決定戦のみ10分間の延長（前半5分、後半5分）を行う。
延長戦で時間内に勝敗が決しない場合は、PK方式で決する（PKは5名）。
順位トーナメントにおいては勝ち上がり決定のみPK方式とし、他は引き分けとする（2014年度改定）。
4. フィールドサイズは80m×50mを原則とする。ただし、陸上競技場、臨海球技場、江戸川区河川敷（篠崎）グラウンドにおいてはその限りではない。
5. ゴールは少年用。FKの際は7m以上離れる。
6. 試合ボールは4号球（0.8気圧）とし、両チームが持ち寄り、主審が決定する。
7. 試合出場選手の数は、
11名とし最低7名以上で試合成立とする。
なお、ベンチ入りの選手数の上限は14名（全25名）、コーチは3名とする。
8. 選手の交代は『再交代制』とする（2016年度用語の修正）。
交代にあたっては交代選手が第四審判に申告し、用具のチェックを受ける。
交代カードは使用しない。
9. メンバーチェックは、各チームの最初の試合開始15分前までに本部前にて行う。
メンバー表は大会期間中同一のもの（最初の試合前に準備したもの）を使用すること。
メンバー表は四審提出用（試合終了後受け取り）と対戦相手用に2部準備する（2014年度改定）。
10. 出場チームは試合開始5分前までに所定の場所（各コートの本ベンチ裏）に集合すること。試合開始時間を過ぎて集合なき場合は放棄とみなし、当該試合を含め当該チームの試合は全てフレンドリーマッチとする。
11. 試合中退場処分を受けたものは、次の試合1試合に出場できない。
12. 眼鏡は安全確保のため認めない。尚、スポーツゴーグルは可とする。
13. 参加選手は全員スポーツ傷害保険に加入していること。
14. 各チームの帯同審判員は2名とし、試合は主審、副審2名、四審の計4名で行なう。
15. ウォーミングアップは、定められた場所で行なうこと。
ハーフタイム時に次の試合予定の選手、コーチがフィールドに入って練習を行なうことは認めない。

平成28年度SS杯争奪ジュニアサッカー大会規定

2016年10月
江戸川区サッカー連盟少年部
運営委員会

【大会規定】

1. 予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦を原則とする。
2. 試合時間は20分（前後半各10分）とする。ハーフタイムは3分。
3. 予選リーグの順位決定は、勝ち点、得失点差、総得点、対戦の勝者、PKの順で決めるものとする。なお、予選リーグの勝ち点は、勝ち：3、引き分け：1、負け：0とする。
4. トーナメントにおいて時間内で勝敗が決しない場合、PK方式（PKは5名）とし、決勝戦・3位決定戦のみ10分間の延長（前半5分、後半5分）を行う。
延長戦で時間内に勝敗が決しない場合は、PK方式で決する（PKは5名）。
尚、決勝トーナメントにおいては3位決定戦を除く敗者戦は引き分けとする。
5. 試合出場選手の数は8名とし最低5名以上とする。なお、1チームあたりの最大登録人数はメンバーリストの上限である25名とする。
6. **選手の交代は自由な交代制とする（2016年度改定）。**
7. 試合ボールは4号球（0.5気圧）とし、両チームが持ち寄り、主審が決定する。
8. 試合出場メンバー表は1部を相手チームに、最初の試合の前のみもう1部を試合開始の15分前までに本部に提出し選手チェックを受ける。その後そのメンバー表を副審に提出する。
副審はメンバー表に結果を記録し、チームに返却する。チームはその日の最後の試合が終了した時点でメンバー表を本部に提出する。
尚、メンバーが25名以上いる場合は、入れ替えを行なう都度、メンバーチェックを受けること。
9. フィールドサイズは、連盟少年部低学年大会と同様、40m×30mを原則とする。
臨海球技場の場合、人工芝の関係でラインの設置が困難なためペナルティエリアとゴールエリアを同一とする（2014年度規定から記載）。
10. ゴールは2m×3m。FKの際は5m以上離れる。
11. 出場チームは試合開始5分前までに所定の場所（各コートの本ベンチ裏など）に集合すること。試合開始時間を過ぎて集合なき場合は放棄とみなし、当該試合を含め当該チームの試合は全てフレンドリーマッチとする。
12. 審判は、1人制審判（主審・第四の審判）で行う。
13. 試合中退場処分（退場・警告2回）を受けたものは、次の試合1試合に出場できない。
また、警告は累積2回で次の試合1試合に出場できない。
審判は、運営本部に警告の報告を必ず行なうこと。
14. 眼鏡は安全確保のため認めない。なお、スポーツゴーグルは可とする。
15. オフサイドルールは適用しない。バックパスは適用する。
16. キックオフからの直接の得点は認めない。
17. 参加選手は全員スポーツ傷害保険に加入していること。

■SS杯争奪ジュニアサッカー大会のユニフォームに関する規定

2ブロックの大会において既に正副のユニフォームが義務付けられているので、ビブスを着用しての試合参加は認めない。

選手固有の背番号に関しては、低学年の育成という観点から以下のように定める。

○プレーヤーの同一の背番号は認めない

【例】9番の選手が2人いることは認めない

○ゴールキーパーの背番号は、選手固有の番号でなくても良い

【例】前半は6番の子が1番の背番号をつけ、GKとして試合参加。後半、6番の子は本来の番号でフィールドに出場、前半9番でフィールドに出場していた子が、1番をつけてGKとして試合参加。このケースを認める（下図参照）。

前半



後半



ただし、警告・退場などの処分があった場合、該当チームのコーチは、選手を特定できるよう速やかに選手名を審判に申告すること。

○GKはシャツのみ着用が良い

FPとしても出場予定のGKはGKユニフォームをシャツだけ着用が良い（2016年度追記）